

福岡市

2015年
あき号
No. 89

私幼だより



- 「幼稚園騒音問題」について
- 役員を紹介

実技
研修

「～リズムからの
運動遊び～」

Event News

- サッカー大会
- すもう大会

となりの Vol.4 園内研修!! なるほど!

連載

子ども子育て支援 新制度へ移行



今年度より新制度へ移行した
ダリヤ幼稚園の「今」を
ご紹介!!

会長あいさつ

『聖職と天職』

一般社団法人福岡市私立幼稚園連盟 会長 柿迫 重正



「職業に貴賤なし」と言われるものの古来より医療や教育に従事する人々の職業は聖職と呼ばれ、高い敬意が払われてきました。それは人の命を守るといふこと、或いは人を育てるといふことに国家が絶対的不变的価値を求めてきたからなのでしょう。

そのことを明確に示しているのが教育基本法の第1条（教育の目的）です。

「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」

教育は人格の完成を目指し・・・心身ともに健康な国民の育成を期して行く。医師を育てるのも教育ならば教師を育てるのも教育です。まさに「国家百年の大計は教育にあり」ということです。

しかし、自戒の念を込めて言わせてもらえば最近「先生」と呼ばれることに馴れっ子になってしまい聖職とは程遠い行動や所作が事件となり世間を騒がせているのも事実です。

最初は高い志を持って職務に当たり、手痛い失敗やほろ苦い経験を積み重ね、やがては中堅からベテランと呼ばれるようになる。その時に心にいつも「初心」を忘れずに持っているか。ちなみにこの「初心」とは、こころざしやモチベーションが高いという意味ではなく初心者の頃の未熟さを意味しています。

つまり「今にして思えば、穴があったら入りたくなるような未熟な頃の自分」をいつまでも忘れるな、ということが「初心忘れるべからず」なのですが、けだし名言だと思います。

さて、もうひとつ教育に携わる人に是非持ってほしいものがあります。それは「天職」＝「私はこの仕事をするために生まれてきたのだ」という意識です。かつて、とりあえず教師にでもなるか・・・という先生を「でもしか先生」と言った時代がありましたが、それとは全く逆で「私は絶対幼稚園の先生になりたい」という思いで職に就き「常に全力で子どもと向き合う。」そんな先生にとって幼稚園の仕事はまさに「天職」と言えます。

「聖職」と「天職」、時代が変わっても教師にとってこの二つの職業観は決して失われてはならない要諦と思います。結びにポエムをひとつ紹介して筆を擱きます。

あこがれ
 わたしが幼かった頃
 いつもそばにいてくれた
 独りぼっちで淋しい時に
 いつもやさしく包み込んでくれた
 お母さんの手のように
 いつもあたたかかった
 ぎゅっと抱きしめられると
 いつもいいにおいがした
 そんなすてきな先生に
 いつしかわたしもあこがれた
 そして今ここに
 先生と呼ばれる私がいる
 その喜びをかみしめながら
 私の日がまた始まる

福岡市こども未来局運営支援課の職員紹介

福岡の
こどもたちのために
頑張ります！

役職 こども未来局運営支援課
利用調整係長
名前 香月 千恵

役職 こども未来局運営支援課長
名前 平田 誠一

役職 こども未来局運営支援課
利用調整係
名前 榎本 涼一
担当業務 第3子優遇事業補助金

役職 こども未来局運営支援課
利用調整係
名前 中野 智隆
担当業務 ・1号認定（新制度移行園）
・支給事務（新制度移行園）
・一時預かり事業（幼稚園型）

役職 こども未来局運営支援課
利用調整係
名前 本村 隆吉
担当業務 就園奨励費補助金

役員紹介

会長
あすなる幼稚園園長
柿迫 重正
血液型: A 星座: やぎ座
マイブーム
ぶら下がり健康器

副会長
星の原幼稚園園長
納田 研二
血液型: A 星座: みずがめ座
マイブーム
ハワイ旅行

副会長
大原幼稚園園長
山本 ミチ子
血液型: B 星座: かに座
マイブーム
小旅行

財務委員長
高取幼稚園園長
渡邊 公三
血液型: A 星座: うお座
マイブーム
ワンダーコアで腹筋運動

研究委員長
原幼稚園園長
松永 麗美子
血液型: O 星座: てんびん座
マイブーム
園芸(花や野菜を育てる)

振興委員長
花畑幼稚園園長
薙野 修二
血液型: A 星座: やぎ座
マイブーム
クロコ

経営委員長
飯倉幼稚園園長
牛島 武史
血液型: O 星座: おうし座
マイブーム
スキーとスマホ!!

広報委員長
茶山幼稚園園長
木村 則夫
血液型: AB 星座: やぎ座
マイブーム
なし

情報ネットワーク委員長
かなやま幼稚園園長
筑紫 大介
血液型: O 星座: しし座
マイブーム
着痩せ

東区支部長
東福岡幼稚園園長
笠井 元
血液型: A 星座: さそり座
マイブーム
フットサルと野球

博多区支部長
カトリック光丘幼稚園副園長
實 千鶴代
血液型: O 星座: いて座
マイブーム ガーデニング
小さな小さな庭ですが、
その季節ごとの花々を植えて
朝!窓を開けて自己満足に
ふけています*

中央区支部長
福浜幼稚園園長
品川 恭範
血液型: O 星座: おとめ座
マイブーム
スポーツ観戦

南区支部長
柏原幼稚園副園長
光安 則子
血液型: B 星座: みずがめ座
マイブーム
4番組同時録画して
各局のドラマを早送り
で見まくる事です!

城南区支部長
福岡幼稚園園長
野口 利里
血液型: O 星座: うお座
マイブーム
ストレッチ

早良区支部長
西福岡幼稚園園長
鐵井 久美
血液型: A 星座: かに座
マイブーム
息子の毎日の
いやがらせ弁当作り

西区支部長
福岡いずみ幼稚園園長
井上 和子
血液型: A 星座: みずがめ座
マイブーム
運動、ジムに行ってます

監事
ときわ幼稚園園長
久保 えつこ
血液型: A 星座: しし座
マイブーム
短歌作りを始めました。
良い事も悪い事も
短歌のネタです。

監事
ダリヤ幼稚園園長
井上 舒之
血液型: O 星座: おうし座
マイブーム
模型作り、現在F14トムキャット(1/32)を
製作中、又、ミニカー・戦闘機・
戦車等おもちゃの収集



経営委員会の主な事業の一つとして、教職員募集活動があります。昨今、教職員募集にとっても苦慮する時代と言われておりますので、今年度も養成校に出向き、「幼稚園は最高の職場です」をテーマに就職説明を行うキャラバン隊を企画いたしました。

6月22日から7月16日までの期間、経営委員と連盟理事、そして、OG・OBの現場の先生を引き連れ、総勢21名で県内の養成校10校を巡りました。約1,350名の学生に向けて、連盟理事から幼稚園教諭の具体的な仕事内容、就職活動の大切なポイント、先生になる心構えなどのお話をさせていただきました。それから、先輩にあたるOG・OBの先生からは、就職した幼稚園での生活や具体的な仕事内容に続き、体験談などを交え、「お金に変えられない価値がある仕事です!」、「この楽しさは、やらないとわからない!」という力強いお話をさせていただきました。学生にとっては、これから進路を固める時期ですので、不安いっぱい、ゆらゆらと気持ちが揺れている背中をポンと押すことが出来たのではないのでしょうか。また、就職に関する質問もたくさん出ましたので、とても盛り多い説明会になったのではと自負しております。経営委員会として、一人でも多くの学生に幼稚園の先生を目指してもらえるように工夫を凝らし、加盟園の明るい教職員募集のお手伝いができるように願っております。ご協力いただきました、経営委員のメンバーをはじめ、連盟理事の先生方、そして、クラスを留守にしてお参加していただいたOG・OBの先生方、おかげさまで無事にキャラバン隊を終えることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(経営委員長 牛島 武史)



私立幼稚園合同就職説明会

主催：(一社)福岡県私立幼稚園振興協会

県協会が主催する「私立幼稚園合同就職説明会」が7月31日、ホテル日航福岡で開催されました。参加した学生数は555名、80園の幼稚園が個別にブースを出して、就職活動を全面的に応援する幼稚園側と、就職活動に弾みをつけようとする学生側の双方にとって大変盛り上がりを見せた説明会となりました。昨今、少子化の影響により、学生数が減少しております。そして、就職を目指す学生の就職先は、求人数の関係から幼稚園よりは保育園の方が多い状況が続いております。したがって、この状況を打開するためにも、地元、福岡市の幼稚園連盟では、メンバー一丸となって、養成校を巡回訪問する「就職キャラバン隊」を編成し、懸命に幼稚園への就職をアピールする活動を展開しています。県協会としては、合同就職説明で私立幼稚園ならではの良さをしっかりと伝え、一人でも多くの学生が幼稚園の先生を希望するように工夫した活動

を展開しています。さらに、福岡県に留まることなく、九州各県の幼稚園団体にも声掛けをして、県単位でのブースを出展していただき、まさにUターン、Iターンする学生にもぴったりの広域で大規模な合同就職説明会になったのではと思えます。出展いただいた幼稚園のみならず、そして、協力していただいた先生方、説明会へのご理解とご協力をありがとうございました。



先輩の実践発表を聞いて

香椎照葉幼稚園 教諭 佐田 裕貴子



今回の新規採用教師研修会では、「保育の実際」ということで、山王幼稚園の岡美沙季先生と、飯倉幼稚園の志垣美沙子先生から実践発表を行いました。新任であった昨年度の1年間を具体的にお話していただき、

多くの学びを得ることができました。

発表では、運動会や発表会といった行事での保育の反省からの学びや、日々の保育での経験といったお話がありました。中でも、登園しぶりの子への手紙をつかったかかわりの働きかけや声かけて子どもが変わっていったという話や、ベテランの先生の子どもたちへの指導の仕方、「得意な子を伸ばす」といった助言のおかげで日々学んでいったというお話に、自分自身のこれまでの日々について考えることがたくさんありました。そして、子どもたち一人ひとりの個性や、成長の時期に合わせた声かけなど、日々反省ばかりの今の私にとって、とても勉強になるお話でした。また、失敗していく中でも、子どもとのかかわりで何が足りなかったのか、どう働きかけることが子どもにとってよかったの

かをよく考え次にいかすこと、周りの先生方の声かけの仕方や、保育の持って行き方をよく見て、どこをポイントにしているのかといったことを学ぶことが大切であると考えることができました。人とのかかわりで成り立つ難しい仕事であると痛感している日々ですが、子どもたちの成長を間近で見たり、感じたり、喜びを味わったりできるこの仕事の魅力を改めて感じることができました。

発表をお聞きして、行事などを通し、これからさらに大変なことや悩むことが増えてくると思いますが、周りの先生方から学び、また、学べる環境に感謝し、ひたすらに子どもと向き合っていきたいと感じました。そして、1年後は、今回発表いただいた先輩方のように、いきいきと充実した眼差し、表情でありたいと思いました。今回、お話を聞いたことはこれからの日々に向け、勉強になることばかりでした。お忙しい中、私たちのために発表してくださった先生方、本当に、ありがとうございました。



今回の発表では、緊張はしましたが、新任の方々が私の方を向いて聞いてくださったことでとても安心して話をすることができました。

準備をしていく中で私自身の1年間を振り返ることができ反省と共にとても勉強になり、幼稚園の先生としてさらに頑張っていこうという気持ちが芽生えました。

このような機会をいただきましてありがとうございました。
岡 美沙季

今回の実践発表を通して、自分自身の昨年1年間の思い出を改めて振り返る事ができたとともに、その時の気持ちを思い返すことができました。同時に「2年目はもっと頑張ろう」という気持ちが湧いてきました。ありがとうございました。

志垣 美沙子

中堅教師研修会

『今を生きる子どもたちへ伝えたい 保育者として 大人として…』

講師：熊丸 みつ子 先生
(子育てアドバイザー・家庭教育専門家)



“笑顔は、子どもにとって精神安定剤” 印象的な言葉で始まった先生の講演会。

「笑顔」…子どもは、笑顔をもらうのがお仕事。笑顔をもらった分だけ、子どもは笑顔になれる。

「幼児期は、人間としての土台を作っている。」…子どものやることには、無駄はない！全てが生きる力に繋がっている。10手がかかる子は、10の生きる力を身に付ける。子どもには、生まれた時から、手のかかる量が決まっている。それが足りていないと、成長の階段をおりて、いくつになっても貰おうとする。手間隙かけて育てられた子は、人を大切にできる。

る。しっかり愛された子、笑顔をもらった子どもは、人を信じることができるようになる。

「昔の子ども、最近の子ども。」…よく聞く言葉だが、子どもは今も昔も変わっていない。変わったのは、核家族が増え、人と関わる事が減り、笑顔や挨拶を貰っていないからである。してもらっていないことをできる子どもはいない。これは親だけの責任ではない。大人の責任である。“親・幼稚園・地域”が必要となる。10の力を持った1人の大人が関わるよりも、1の力を持った10人が子どもに関わった方がいい。その方が10の生き方を、価値観などを知ることができる。“子どもがわがままを言ったり手を煩わせるのは、相手を信頼している証”である。

「2歳から9歳は、大事な時期」…わくわく、どきどきが感性の基礎となり、価値観、生き方を身に付ける大事な時で、しっかり叱って、褒めて、伝えていくことが大切となる。

“生きる力を身に付け、『土台』を作っている子どもは、思春期を乗り越えられる!!”

“子どもは、幸せになるために、生まれてくる”

“保育者として、幼児期という大事な時期に、子どもの成長を見守り、育てる責任がある。”

先生は、元気いっぱい笑顔、パワーあふれる語り口で、優しく心に届く言葉の数々を講演会で伝えてくださいました。





新規採用研修会

～公開保育～



また、園長先生をはじめ、諸先生方のご協力があったので、感謝の気持ちを忘れず、これからの保育を頑張っていきたいです。

幼稚園教諭という仕事につき、六月までの三か月間保育を行ってきた、何もかも初めてのことで子どもたちの前で日々の保育をこなしていくことで毎日精一杯でした。もちろん今もまだ気持ちがいっぱいいっぱいになることも多くありますが、最初の頃に比べるとほんの少しですが余裕をもって子どもたちの前に立ち、保育を行っていくことができるようになったのではないかと思います。

そんな中、公開保育のお話を頂き、自分の保育を他の先生方に見て頂くことに不安と緊張でいっぱいでした。クラスの状況や子どもたちの様子を見ただけで、子どもたちと何をしたいか、何ができるかを考え計画を立て、それに向けて保育を行っていました。

公開保育当日、緊張から思うようにできなかったり、アクシデントもあつたりしましたが、子どもたちのいつも通りの笑顔に助けられた部分が多くありました。また、保育終了後の協議会では、他園の先生方から質問や感想を頂いて、自分の保育に何が足りないのかやどう改善していけばよいかを知ることができ、また、自信につながることもできました。自分の保育を他園の先生方に見て頂き、協議をして頂くという貴重な経験をさせて頂いて感謝しています。



那珂幼稚園にて



那珂幼稚園 教諭 八代 佳菜



同じ一年目の先生がクラス全体の様子を見ながらまとめとっており、どの様な保育をされているのか見せていただくことで刺激をもらうことが出来ました。また、客観的に保育を見ることで、多くのことに気づき、学び得ることが出来ました。今回学んだことを今後の保育に活かしていきます。貴重な経験をさせて頂いたばかり、ありがとうございました。

また、先生の言葉遣いが丁寧で、子どもが自由に発言することにに対し、一人ひとりに受け答えをされていました。その様な子どもに対する先生の姿勢が、子どもが自分自身を表現したいという気持ちに繋がっているのだらうと感じました。そして、それは活動自体にも取り入れられていました。活動内容は「すごろくのテーマ決め・「コマ作り」であり、どちらも子ども自身、またはグループのお友達との話し合いで決めるものでした。すごろくのテーマ決めでは、子どもが意見を出し合って決めていき、「コマは決められた形がなく子ども自身のアイデアで作っていくものでした。子どもの表現力や創造力を養える様な活動を通して、子どもは毎日伸び伸びと過ごしているのだらうと感じました。



正法寺ルンビニー幼稚園にて



けご幼稚園 教諭 浪口絵里香

正法寺ルンビニー幼稚園は、小学校が隣接していることもあり、子どもの活気溢れる地域環境の中で、子どもが伸び伸びと過ごしていると感じました。

今回見させていただいた年長さんのクラスで印象的だったことは、先生の子ども達に対する声掛けでした。活動の中で、子どもが上手くいかなかったり、疑問を持ったりしたことにに対し、答えや先生の考えを伝えるのではなく、子どもが自ら考えることが出来るような声掛けをされていました。子どもの視線に立ち、「どうしたらいいと思う？」と子どもに問いかけたり、お友達の意見やキーワードを参考に考えてもらえるように促したりとそれぞれの子どもに合わせて声掛けや援助をして活動を進められていました。



茶山カトリック幼稚園にて



飯倉幼稚園 教諭 有田 理紗

今回、私は茶山カトリック幼稚園の公開保育を見させて頂きました。園に入ると、子ども達が花に水やりをしたり、自分から保育者や保護者の方に挨拶をする姿が見られ、とても温かい雰囲気を感じました。

主活動に入る前に、「八百屋のお店」の手遊びを行い、楽しみながら子ども達に問いかけたり、話をする中で、子ども達は先生に注目し、真剣に話を聴く姿が見られました。活動が始まると、子ども達は集中し、手を膝の上に置いて、誰一人話をする事なく、説明を聞いていました。先生は子ども達に対し敬語で話しかけており、言葉遣いが丁寧で子ども達の手本となるよう意識されているのだと感じました。遊びの時間とのけじめをしっかりつけることができているように思います。活動に使う教材を配る際には、一人ひとりに「どうぞ」と言いながら渡し、子ども達はきちんとお礼が言っていました。このような関わりを大切にすることで、自然と礼儀も身に付くため、必要な時間だと感じました。製作中の先生の声掛けや一人ひとりへの対応がとても丁寧で、子ども達は落ち着いて、安心した気持ちで活動ができるのだと思いました。今回、感じたこと、学んだことを保育に活かせるよう日々努力していきたいです。このような貴重な経験をさせて頂いた茶山カトリック幼稚園の園長先生、ならびに職員の方、ありがとうございました。



子ども子育て支援 **新** 制度へ移行

ダリヤ幼稚園

事務長 井上 慶一

本園は、今年度より子ども子育て支援新制度へと移行いたしました。

なぜ、このタイミングで移行を決定したかというと、本園が個人立で運営をしているからです。正直なところ、本園も法人格を取得していたら、新制度への移行は、まずは様子見…という判断になったのではないかと思います。

結果的に本園は、今年度より、施設型給付を受ける私立幼稚園（1号認定のみ）として、運営をさせていただいております。

移行するに当たり、昨年から準備を進めてきました。具体的には在園児の保護者の方への説明が多くを占めています。支給認定となる保育料、またその公定価格の中には入園料も含まれています。今年度の年長・年中はその入園時に、入園料を既に徴収させていただいております。では、既にいただいていた分のお金はどうするのか…

就園奨励費ではなく、月々の保育料が既に補助をうけた保育額になってます、と説明し保護者の方に納得をいただいたのですが、それから、利用者負担額の決定までが期間が長く、来年の保育料はいくらですか？と保護者

の方から何度も聞かれ、それについては、園としても何とも言えない現状があり…それは、新入園児の保護者にも同じで、10月の願書配布・11月の願書受付の時期にも、月々の保育料に関してはあまり具体的には説明もできず…など等、保護者の方への説明もきちんとできないままの新制度がスタートしました。

実際にスタートしてからは、子ども達への保育内容、教育方針は従来通りさせていただいております。また、施設型給付をいただく事で、職員の増員、施設拡充、子ども達への配慮、職員のモチベーションアップ・スキルアップという面で、昨年までの個人立で運営をしていた時より、子ども達に与える保育の質の向上を図るといってもその方向に向かっていると思います。

しかし、これから2号認定・3号認定を受け入れるかという事に関しては、もう少し様子を見ながら判断をしていきたいと思っています。

今年度、施設型給付を受ける私立幼稚園に移行し、結果、今まで個人立で

運営をしていた時から比べれば、施設型給付をいただく事で、園の運営も安定し、子ども達一人ひとりにしっかりとフォーカスを当て、子どもを取り巻く環境のインフラを整備して、保護者の負担減等、そして、何をすることも子どもにベクトルを合わせて、子ども達を教育していくことで、家庭や幼稚園が繋がりを深め、それぞれが共にブラッシュアップされていくように、これからも取り組んでいこうと思います。



幼稚園騒音問題



ある日突然、「子供の声がうるさい」遊戯や楽器の練習音に「大きな音は止めて欲しい」、ダンスの練習をしていたら「その曲は嫌いなのでCDをかけないでほしい」、鼓笛隊や民族楽器の練習をしていたら、「太鼓の音がうるさくて寝られないから窓を閉めてほしい」と言われ、伝統の鼓笛隊の屋外練習を中止することになった。お泊り会、夕涼み会の時の花火、「音と煙が迷惑なので、止めて欲しい」「時間外なので(?)、静かにしてほしい」。楽しいイベントに冷や水をかけられたみたいで、長年幼稚園をやってきた側として、時に理解できない言い様の無いクレームを突然持ち込まれ、これは世間の感覚が正しいのか、こちらの感覚が間違いで古いのか、ただ驚き狼狽するしかない。

まず、音の問題は「騒音問題」としてよく、認知されるが、子どもの声や活動で発する音が騒音とみなされるかであるが、2011年、ドイツでは「子どもの声は騒音ではない」とする法改正をした。即ち、幼稚園発祥の地ですら、住民から閉鎖や移転を迫られる裁判が相次ぎ、敗訴した幼稚園が閉鎖に追い込まれていった例があり、この法改正はそれがきっかけで生まれたわけである。

決して特別なことではなく、東京都のように条例や法律の改正を視野に入れている自治体も現れている。しかしこれは2014年10月上旬、東京都国分寺市で認可保育所近くの路上で、園児を迎えにきた親に手おのを見せた男が逮捕された。園児の音がうるさいと日ごろから市に苦情を寄せ「対応しないと園児の首を切る」と職員を脅していた。子どもの声をめぐっては以前から、保育所や公園などで様々なトラブルがその背景にあったと言える。都の調べでは、これ以外に都内62市区町村のうち、6自治体が公立保育所で防音壁を新設したり、遊具の置き場を変え、15自治体が園庭で遊ぶ時間を短くした。行政にとっては待機児童対策が急がれる昨今では、さらに深刻となり、保育所に適した土地が少ない都市部では住宅地域での建設も余儀なくされ、計画が浮上した途端に苦情が寄せられるケースも少なくない。待機児童解消のため保育所の新設が進む中で、子どもの声を騒音とした近隣トラブルが増えており、それと同じように既存の幼稚園でもこうしたトラブルが増えてきているのは事実である。

クレームに対応できることは限られるが、例えば、拡声器の設置に工夫するという話をよく聞くことがある。会場全体の音量と比べれば当然ステージ上の子どもたちが必要な音量のモニタースピーカーだけならば、もう少し小さな音量として控えることも可能になるので、会場全体をカバーすると比較して音量を小さくでき、十分に子どもたちが練習できる音量をステージでは維持することができると思うが、もし、それ以外の例えば、防音壁のような対応ができることには限らないだろう。

音の基準は、db(デシベル)という単位が知られている。その基準として、そもそも騒音とはどの程度の音の大きさのことを言うのか、次のような数値を参考資料としてあげておこう。

- 20db 木の葉のふれあう音
- 30db ささやき声
- 40db 図書館など静かな場所 パソコンの動作音
- 50db 静かな事務所内の作業音(朝・夕の騒音レベルはこれ以下とならなければならない。)
- 60db 普通の会話程度の音量(昼間の騒音となるか否かの基準となり、これ以上は騒音となる。)
- 70db 電話などが鳴り響く騒々しい事務所
- 80db 地下鉄などの車内
- 90db 騒々しい工場の作業音程度の騒音
- 100db 電車が通るガード下など、うるさい場所
- 110db 自動車の警笛(前方2m)・リベット打ち
- 120db 飛行機のエンジンの近く

一説に幼稚園の音の量は、60デシベル以上から70デシベル程度と言われているが、福岡市の騒音基準では早朝・夜間では55デシベル以下、昼間でも60デシベルとなっているので、騒音問題として行政に訴えることはできる。つまり一般的な穏やかな生活を営む権利や睡眠等の基本的な生存権の話が前面に出てくるので、環境局は子ども未来局と正反対の立場となります。管轄違いとは言え、同じ行政組織が互いに争う矛盾がある。

騒音という明確な基準があり、その基準を順守しなければならない必要と意義は理解できるが、工事現場の機械音やカラオケの音などと一緒でいいのかこのままでは子どもは町から締め出されてしまうそんな事態が許されるのか考えなくてはならないようだ。

外で思うように遊べない、歌えない、楽器も鳴らせない。それは子どもの生活ではない。笑ったり、泣いたり、感情を表に出すのは成長の証しである。と私たちは考える。

そこでドイツのように法律で子どもの声を規制の対象から外すことを求めている。

現在、東京都も、子どもの声を規制から外すことを検討中であり、条例などの具体的な手続きに入っているところだ。法律制定においては行政だけでなく議員の皆様の力も重要であり、保護者の支援も重要ではないだろうか。

さて「保育園の隣に住むのは発狂レベルの騒音だった」という書き込みがネットにあるが、そこに住む人にとってはこれは深刻な重要問題でもあり、立場が違えば、言いたくなるかもしれない。それだけに互いを結びつける努力という心配りなどが、行事の度にちょっとした相手への気遣いを示すことで「共に生きてゆくための努力」と考えるか、「冷たい社会の被害者」と埒外におくと考えるかで、地域の受け止め方もまったく異なるのではないだろうか。

知らない子どもというだけで、その声は不快にさせるのかもしれない。

園内だけでなく地域の祭りやイベントに園児やその保護者が気兼ねなく参加するなどして、共生を模索する試みも生まれていると聞いている。

(広報委員長 木村 則夫)



親学級講座 「うちの子最高!!」 講師：熊丸みつ子先生



熊丸先生のお話

は、始まった瞬間から笑い声で会場が盛り上がるほど、元気でパワーあふれるものでした。子育てで悩む私の気持ちをスバスバと代弁して頂き、「全国のお母さんはみんなそうなのよ!」とお話して下さいました。会場にいる私たちの心が先生の言葉でどれだけホッと出来たことか。先生の話にどんどん引き込まれていきました。「笑顔は精神安定剤」それは子どもだけでなく、私たち大人にとっても同じことが言えます。「笑顔」は人生の基礎を作る大切なものということとを改めて教えて頂きました。でも日々子育てに追われている私は、イライラし子どもに笑顔が与えられない日々がいっぱいあります。そんな私たちに「子どもがギャーギャー言って、親がイライラする。それは、お互いに遠慮がない関係ということで、順調な証拠!そんなの当たり前よ!」と笑顔で言ってください



た先生の言葉に安心させられ、少しずつ元気が出てきました。「沢山

叱って、褒めて、伝えて、手間ひまかけて育てていい。普通の親でいいのよ。いつか子どもはわかってくれるんだから。」先生の言葉一つ一つが子育てに悩んでいる私の心にどんどん染み込んできました。講演中、笑うタイミングも、涙するタイミングも一緒な方が沢山いて、講演が終わったあとも、「今日来て良かったよね」と同じ気持ちで帰る仲間がこんなにいっぱいいるんだと思うと、元気が出ていました。子どもを育てるのは「人」です。一人で悩まず、沢山の人の助けをもらいながら、沢山の人の笑顔を見せてもらいながら子育てを頑張ろうと思えました。熊丸先生、本当に素晴らしいお話をありがとうございました。

(高取幼稚園 谷本 聡美)



PTA指導者研修会 「僕の人生、1日1笑」 講師：森 裕生先生

6月9日にPTA指導者研修会を開きました。本年は株式会社ファーストスタイル代表取締役の森裕生さんをお招きして、ご講演いただきました。森社長は脳性麻痺のため障がいをお持ちです。学生時代は、いじめを受け、自殺を考えたこともあるそうです。しかし、マジックに出会い、修行をされ、現在は、コミュニケーションの大切さを伝えるために、マジックショーを織り交ぜた講演活動を展開されています。講師選定にあたり、脳性麻痺のため、若干言葉が不明瞭なところがあり、正直なところ大丈夫かなと思いましたが、ところが、当日は、話の面白さに、会場は笑いに包まれました。障がいをテーマにすると、話が深刻になりがちですが、森社長は、ご自身の苦勞について冗談を交えながら、楽しく、かつ、明確なメッセージをもって、お話をして下さいました。コミュニケーションがいかに大切か、そして、親がいかに大事なのか。お越しになった保護者の方々に響いたのではないのでしょうか。森社長は、マジックショーや講演活動のほかにも、障がいをもって自立して生活していけるように、名刺に点字を入れることを広める事業なども展開されています。早速ですが、幼稚園連盟の企画委員の名刺にも、森社長にお願いして、点字を入れました。



平成27年度 PTA指導者研修会



障がいを持っていても、いなくても、コミュニケーションの大切さは変わりません。また、親の力の大きさも変わりません。改めて、学ぶことができました。各園、各家庭にて実践をしてほしいと思います。森社長、ありがとうございました。

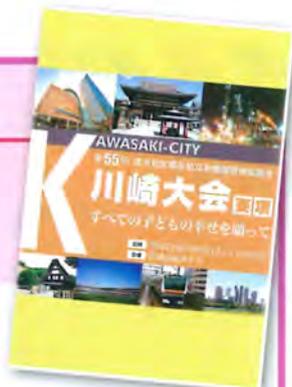
(振興委員長 薙野 修二)



第55回 政令指定都市私立幼稚園団体協議会 川崎大会

大会テーマ：「すべての子どもの幸せを願って」

日時：平成27年7月9日(木)～10日(金) 会場：川崎日航ホテル



例年、各地区持回りで開催されている協議会に連盟執行部とPTA会長が参加しました。今年、神奈川県川崎市で開催され、全国各地より関係者が集まりました。冒頭には大会実行委員長より「開会の辞」があり、次いで川崎市長より大会宣言がなされ、盛大に協議会が始まりました。大会は二日間にわたり、初日は、「幼児教育の現状と課題について」と題し、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長の淵上 孝氏より新制度元年ならではの話を聞くことができました。記念講演では、チベット出身の音楽家、バイマーヤンジン氏にご講演をいただき、チベッ

トでの生活や日本との文化の違いなど、普段なかなか耳にすることのない素敵なお話しをお聞きしました。意見交換会では、各地区よりお集まりの先生方とたくさんの情報交換を行い、たいへん有意義な時間となりました。二日目は、五つの分科会に分かれて各都市意見発表を行い情報交換と今後の課題などを話し合いました。今年、新制度元年ということもあり、新制度に移行した園からの生の情報も聞くことができ大変実り多い協議会となりました。



政令指定都市私立幼稚園団体協議会 第14回次世代研修会 熊本大会

日時：平成27年7月30日(木)～31日(金) 会場：KKRホテル



平成27年7月30日31日に政令指定都市私立幼稚園団体協議会 第14回次世代研修会が熊本のKKRホテルで行われました。

第一部講演では「くまモンにみる熊本県のブランド戦略」という題目でくまもとブランド推進課長の成尾雅貴氏に講演頂きました。オープニングでくまモンが登場し、くまモン体操を披露していただき会場全体が盛り上がりしました。その後、成尾氏から熊本ブランドの確立のお話を伺いました。「サプライズ熊本」と題し、くまモンをツールとして、キャラクターを売るのではなく「くまもと」を売るということをコンセプトに自治体が企業に営業をする、といった新しい形の取り組みのお話をいただきました。

第二部のパネルディスカッションでは、北九州市、札幌市、熊本市3都市それぞれの団体の会長に「各都市の現状とそれに伴う若手園長の育成」と「団体としての役割」について討論していただきました。

若手の育成については各都市共に、若手の集まりを介し近い年齢の園長、後継者が悩みや問題点を共有し、それに向けた解決策を話し合う前向きな場があるということでした。また、北九州市においては協会の派生団体としての「麒麟の会」という若手の会があり、活動内容としては、目標を持つ。養成校との関わり合い。新任の愚痴のはけ口になる。など交流を通しての仲間作りをされている、とのことでした。

ただ、各都市共に問題点として若手の高齢化があげられておりこれからの課題も提示していただきました。

政令私幼の意味としては、行政報告を聞くことで各地区の動きを知る。各都市の動きに合わせた予算陳情。などがあげられました。

今大会に参加させていただき学び多き機会となりました。ありがとうございました。



海外研修

あすなる幼稚園 教諭 矢田部 加奈子

私は、7月26日から7月30日の4泊5日でマレーシアとシンガポールの研修に参加しました。マレーシアではホームビジット体験もしました。現地の方も明るく迎えてくださり、ゲームをしたりダンスを踊りマレーシアの民族衣装も着ました。

お昼はカレーライスをごちそうになりましたが、そこでは素手で食べました。普段しないので、なかなか難しかったですが良い思い出になりました。

シンガポールに移動して、夜はマリーナベイサンズで夜景を見学しました。ここに来て良かったと思えるほど素敵な所でした。次の日は、クルージングをし、きれいな街に大興奮でした。

3日目は Jeet's little learners というシンガポールにある託児所に行きました。政府からの補助金も個々に出るようで日本と似ていると感じました。Jeet's では、幼児のうちに英語を勉強させるようにしていると教わりました。壁など目に触れるところに英語や中国語などの文字を壁面にして飾っていました。シンガポールでは日本と同じように、まだまだ男性保育士が少ないそうです。子ども達には、日本の文化である折り紙をしたり、ブンブンこまや紙鉄砲で遊びました。今回、海外の教育事情や文化、考え方を学び体験することが出来ました。とても楽しくて忘れられない貴重な経験をすることが出来ました。ありがとうございました。



初めは自分が主任研に参加して大丈夫なのかと緊張して参加した第一回でした。グループ討議では同じグループの先生方と意見を出し合い、笑いながらあっという間に時間が経過していました。

二回目は一枚の写真を見て印象に残ったことを互いに意見を出し合い、フォトラーニングでの目線の違いなど、同じものでも見る人により見える角度が違うことを改めて実感しました。何気ない日常の保育の一場面や保育環境、気になる子どもの様子など、写真一枚を園内研修に取り入れることで先生方も意見を出しやすくなることを学びました。なかなか意見を出しづらい新任の先生でも経験のある先生でも、自分の意見を言える園内研修を行うことで、多様な目線で保育を見て質を高めていけると思いました。

また、今回グループでのコーディネーターをさせて頂きました。時間内にグループ内全員の意見を聞きだすこと、話しやすい環境を作ることの重要性も学びました。たくさんさんの園の先生方と意見を交換できる素晴らしい研修なので、「園外で学んだことを園内に、園内で実践したことを園外へ」を胸に、残りの研修でコーディネーターとしてのスキルを身に付け、実践していきます。自園の研修を充実させていけるようにしたいと思います。



主任研を終えての感想

清星幼稚園

中村 美鈴

編集後記

私幼だより89号が情報ネットワーク委員会のメンバーのご協力のもと無事発行されたことを大変うれしく思いますと同時に原稿を執筆していただいた方々に深く感謝申し上げます。9月に入りましてまだまだ残暑が厳しく各園におかれましては運動会の準備等で大変な毎日を過ごされていると拝察いたします。が次号90号は来春発行予定です。皆様により親んでもらえるよう更なる誌面の充実を図りたいと思いますのでどうぞご期待ください。

